

『 発達障害に関する支援者講座 10月16日 』

第3回 講演『 発達障害支援における医療 』

社会福祉法人恩賜財団済生会守山市民病院

小児科 医長 上羽 智子氏

講演『 県立リハビリテーションセンター事業から見える発達障害 』

県立リハビリテーションセンター 事業推進係

理学療法士 田所 愛理氏

講演『 発達障害専門デイケアとプログラム紹介 』

滋賀県立精神医療センター地域生活支援部 デイケア係

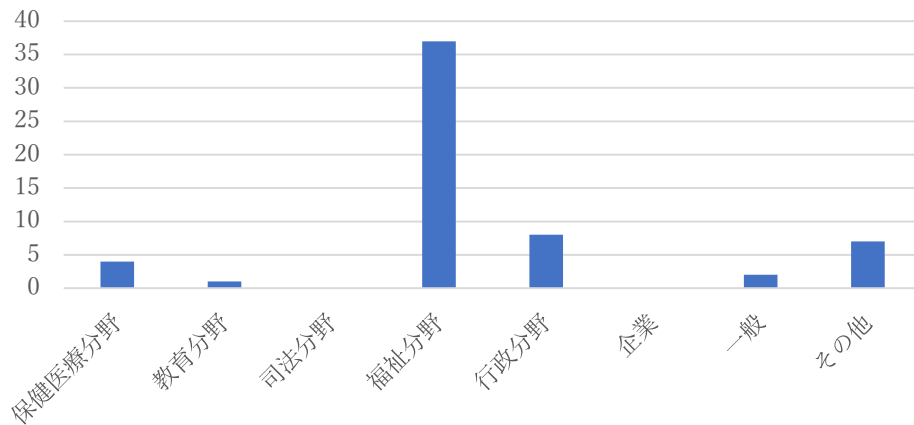
係長 加藤 郁子氏

参加者：71名

アンケート回収率：82%

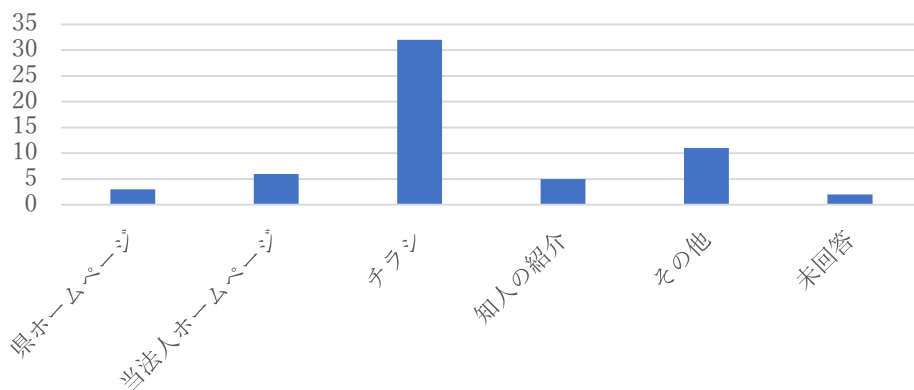
本講座をどのような立場で

ご参加いただきましたか

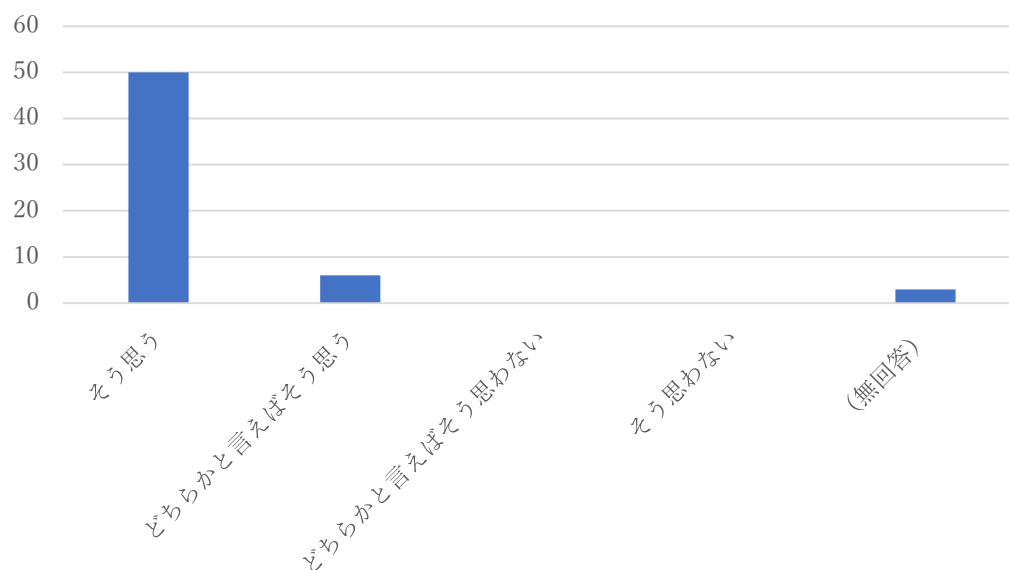


本講座をどのような方法で

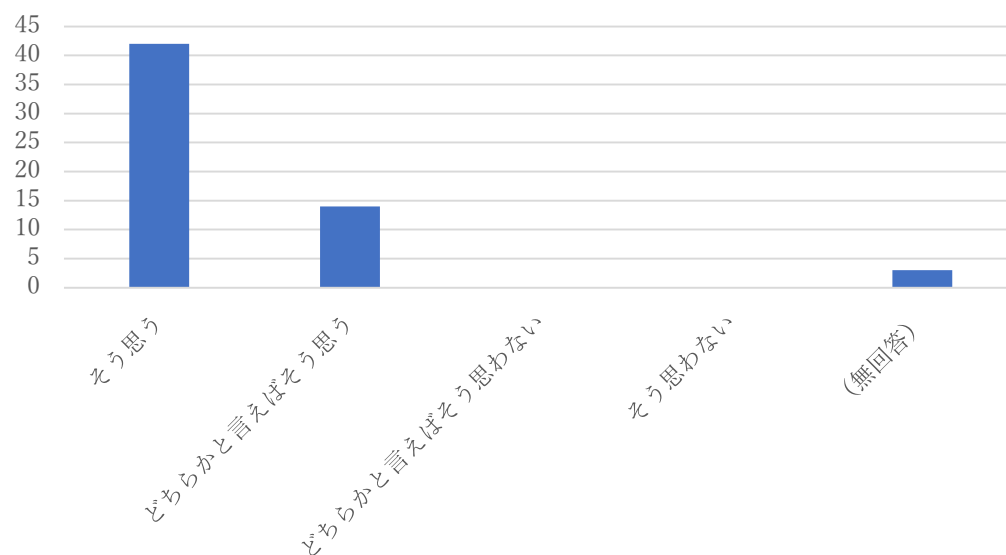
お知りになりましたか



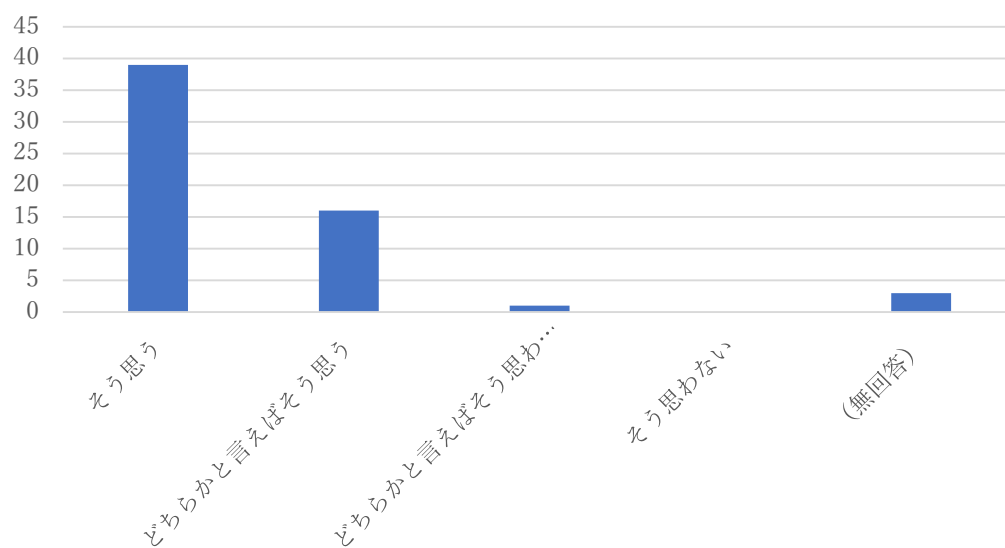
講演内容に対する理解が深まった



日常生活に取り入れたいと思った



家族・友人・同僚に伝えたいと思った



◎その他ご感想など

*アンケートの中から抜粋し、個人が特定されないような形で要約させていただきました。

- ・告知の件は、とても難しい問題だと思います。支援員というより、保護者さんの負担になる問題なので、しっかりサポートできるように、環境を整えていきたいと思いました。
- ・薬の名前は知っていたけど、飲むタイミングや効く時間等、薬について全くわかっていなかったのができてよかった。放課後デイに来ている子も飲んでいる子が多く、このような状態なのだなということがわかった。薬を飲む以前に、環境整理が大切ということで、まずはそこを大切にしていこうと思う。
- ・医療からの視点は、相談支援において発達障害のある人と関わる、または、支援機関とのネットワークを構築する上で非常に参考になります。「できるようになったところに目を向ける」視点は、とても大切にしているし、したいと考えている事なので、医療の方とも同じ方向を向いて、日々の相談支援に努めたいと思います。
- ・医療的な立場の方々からお話をきく機会がなかったので、勉強になりました。よく耳にする薬の話もあり、「そういう役割で飲んでいるのか」と気づき、知識を身につけることができました。デイケアやリハビリテーションについては、本当に名前だけで何をされているのか場所も知らなかったのが、今日の研修を通して新しいことを知る事ができました。
- ・告知のあり方についても、発達障害かそうでないかという基準ではなく、その人たちにとって一番よい告知方法を考えることや、年齢や性格・タイプによってそれぞれ告知に工夫があることを知りました。先生のようなお医者さんに出会える方は安心だなと思いました。診断の実際について知る事ができ、とても貴重な時間でした。
- ・リハビリテーションセンターやデイケアのお話も、コンパクトにまとめて大切な所が伝わってきて、分かりやすかったです。すべての話が繋がっていて、全体像が見え、いつ、どうすればよいかのヒントになりました。
- ・地域に根ざした医師のお話で、とても分かりやすかった。告知や地域との連携について、医師の立場からのお話をもう少し聞きたかった。
- ・発達障害の人の運動のしづらさや原因がわかりました。デイケアのことを具体的に知る事ができた。
- ・様々な職種から見た発達障害へのアプローチを知る事ができてよかったです。診断がつかないことがゴールになってしまわないようにしていかなければと思います。
- ・落ち着きなく、不注意・忘れ物や友人関係のつまづきを感じている子どもとの付き合いの中で、服薬へいきつくまでのプロセスが、よくわかりました。ご家族とご本人を包括的に支えることが必要なのだと改めて感じました。リハビリセンターや精神医療センターでの発達障害の方との関わり方についても知る事ができてよかったです。